

# 初のニュージーランド 遠征合宿を行って

西坂啓二

(香里中学・高等学校教諭  
・ラグビー部顧問)

平成八年七月一日、同志社香里ラグビー部創部四五年の歴

史の中で、初めての海外遠征合宿を試みることになった。私は以前からニュージーランドの本場のラグビーを一人でも多くの部員たちに経験させてやりたいという気持ちを持っていた。幸いにも今回、学校側の国際教育推進の一環として、今年度よりクラブ活動の海外合宿の許可がおりたこともあり、この計画に早速取りかかったが、こんなにも早くにそれが実現できるとは夢にも思っていなかった。

七月一日、関西国際空港には今までの同志社香里ラグビー部の部員とは思えないほど見違えるようなブレザー・ネクタイ姿の部員たちが集まり、校長先生をはじめ教頭先生・保護者・

OBの方々の見送りを受け出発した。

翌七月一日、ニュージーランドの南島にあるクライストチャーチ空港に顧問三名・通訳一名・部員五〇名、総勢五四名が降り立った。私はその時、この計画が夢ではなく実際に実現できたのだという実感がこみあげ、感無量の喜びを味わった。

次の日よりニュージーランドR・F・Uの公認コーチという肩書きを持つブラウン氏とジョーン氏両氏による、日本ではとてい経験することのできない素晴らしい環境の中で本場ニュージーランドラグビーのコーチをうけ、今までにない技術と知識を身につけることができた。クライストチャーチR・F・Cは世界で二番目に古い歴史のあるクラブチームでもあり、立派なク

ラブハウス、芝生の広々としたグラウンドを二面、あるいは素晴らしい設備の整ったコテージを九棟も所有していた。そんな日本では考えられない環境で合宿をすることができ、さらに数多くの新しい経験ができたことは、部員たちに言葉に言い表せない感動と将来にむけての希望を育んだことだろう。そしてそれはこれからの人生にとって大きな財産となったことと確信している。七月一七日には世界最強といわれているニュージーランド代表チーム、オールブラックスの練習を見学することができ、七月二〇日はそのオールブラックスと南アフリカ代表チーム、スプリングボックスとのテストマッチを幸運にもランカスターパークにて全員で観戦することができた。部員たちは雑誌やテレビで目にする世界的にも有名な選手が実際に自分の目の前でプレーしているのを見て、感動と同時にその動きに見入っていたのが印象的であった。

七月二一日、部員たちにとって初めての経験である外国人との試合である。部員たちが日本で学んだ技術と知識が本場ニュージーランドでどこまで通じるか不安と期待のなか試合が始まった。試合相手はお世話になっているクライストチャーチFCのCOLTツチームである。一九〇センチ・一〇〇キロをゆうに越す巨漢ぞろいのフィフティーンで、試合開始早々は戸惑い思うようにプレーができていなかった。しかし徐々に好プレーが随所にみられるようになり、Aチーム・Bチーム共に敗れはしたが、今後につながる大きな自信と満足感を味わった試合であった。七月二四日はニュージーランドでの二戦目であり最後の試合でもある。また、この遠征合宿での練習の成果が試される

試合でもある。対戦相手は、AチームがクライストカレッジH・S、BチームはセントアンドリュースカレッジH・Sである。両チームともにさすが外国人チームとあって同年代にもかかわらず巨漢ぞろいで、どのような試合になるか不安でいっぱいであったが、部員たちはそのチームに対して臆することなく、勇猛果敢に挑み、素晴らしい試合を展開してくれた。特にAチームは巨漢の相手を一発必中のタックルでしのぎ、試合開始よりテンポの早い連続攻撃を繰り返し、前半一九分には敵ゴール前へ攻め込み鮮やかなオープン攻撃で先制トライを奪った。試合終了間際に1トライを奪われたものの、終始同志社香里ペースでの試合で27-7というスコアで勝利をおさめることができた。Bチームも巨漢相手に一歩も引かず、攻撃を繰り返し一進一退の試合であったが、惜しくも5-12の僅差で敗れてしまった。Aチーム・Bチームともにこの試合において自分たちよりはるかに巨漢選手に対して挑んだ個々のプレーと精神力は素晴らしく、今後部員たちにとって大きな自信と糧になったことと強く確信する。この遠征合宿を実施したことにより同志社香里ラグビーの新しい一歩を踏み出した思いである。

長いようで短かった一二日間の日程を終え、関西国際空港に全員無事降り立った。少し疲れぎみではあったが満足感にあふれた部員たちの顔を見たとき、大きな事故もなくこの遠征合宿が成功に終わり、今後の同志社香里ラグビー部の新しい歴史の始まりであると強く確信するとともに、今後の大きな希望と期待とを得た思いであった。この素晴らしい経験を生かし部員たちが大きく成長してくれることを期待したい。